

Leaf @ 同窓会

No. 8

編集・発行

島根大学教育学部同窓会（本部事務室）

松江市西川津町1060 島根大学教育学部内（〒690-8504）

Eメール e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html

電話(新設) 0852-32-6297 (FAXも同)

新理事長
あいさつ

理事長 原 広治

会員相互をつなぎ、紡ぐ

この春から舟木賢治先生の後任として、教育学部同窓会理事長を務めさせていただくことになりました。

人と人との関わりが薄れるなか、周りからは自己責任が問われ、自助能力の発揮が求められています。そのような今日であるからこそ、人との関係を紡ぐ営みを通して、一人一人を護っていく環境や地域社会が必要であると思えてきます。その意味で、本会が行う名簿や会誌の発行、各支部の活性化等々の取り組みのいずれもが、会員相互をつなぎ、紡ぐ、大切なものであると考えます。同窓会の諸活動において、新しい出会いと活力が生まれることを期待し活動を推進していきます。

(前副理事長 大学院教育学研究科 教授)



今年度、理事長、副理事長に交代がありましたので、ご紹介し、ご挨拶いただきます。

副理事長
あいさつ

副理事長 河添 達也

学部と同窓会とをつなぐ

教員養成の質の向上は言わずもがな、教員採用の数値目標まで課されている昨今、学部教育には同窓会の力が必要です。また、同窓会にとっても、若い学生へ向けた教育実践力の継承発展に資することは、重要な使命の1つでもありましょう。教育学部支部長を兼任する副理事長という重責ですが、学部と同窓会とを繋ぐパイプ役として、理事長の原広治先生とともに尽力してまいりたいと思います。

(学部支部長兼務 芸術表現教育講座 教授)



オリンピック
の年の秋に

『同窓会名簿2016』 いよいよ発刊近し!



会員限定
注文制

4年に一度発行しております同窓会名簿がまもなくできあがります。たくさんの方にご予約いただき誠にありがとうございます。この名簿が、会員の皆様に大いに活用され、同窓会活動活性化に寄与しますこと、願っております。

中には予約し忘れられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これからお申し込みいただきましてもまだ間に合いますので、ご希望の方がいらっしゃいましたら同窓会事務局までご一報ください。申し込み用のはがきをお送りいたします。

事務局は、毎週火曜日と金曜日の午後1時半から4時まで山田事務局員が在室しております。これ以外の日時は、不在となりますので、お名前とご住所を記入して、FAXまたは郵便でご連絡くださいますようお願いいたします。なお、同窓会名簿は、同窓会からの補助により、3500円にて頒布いたします。

(副会長 白石 隆子)

名簿を使って
活動を

全卒業・
修了生
掲載

同窓会員からの「今」の報告です

学校では今



海士町立海士小学校 校長
齋藤 毅一 (H60卒)

海士小学校では、『チーム海士小』を合言葉に、42名の子どもたちと13名の教職員が、“チーム”を意識しながら様々な活動に取り組んでいます。日々の授業、様々な行事の中で、自分のことはもちろん、相手や集団を意識した活動にできるよう、声を掛け合いながら進めています。ガイドを中心とした算数のわりわり授業、全校3組に分かれた縦割り班活動、業間タイムに行われる持久走など、いろいろな場面で教え合ったり、友達を応援したりする姿が見られます。全校が集まって盛り上がった場面では、子どもたちから『チーム海士小』の声が出るような雰囲気になってきています。『チーム海士小』が伝統になっていくよう、これからの活動でも意識していこうと思います。



地域では今

飯南町教育委員会 教育次長 永井あけみ (H4卒)

誰かのために

平成4年3月に教育学部を卒業してから24年の歳月が流れました。卒業後約10年間の民間企業勤務を経て、現在は飯南町役場で職員として働いています。役場職員になった当初は、民間企業とは全く異なる公務員という枠の中の仕事に、少しとまどいを感じ、また行政の知識にも乏しく、何のために役場職員になったのか、不安に思うことが多かったように思います。しかしながら、次第に業務の中で地域の皆さんとふれあう機会が増え、家族の話や仕事の話をして、一緒にイベントを実施したりしていく中で、困っている、地域の皆さんが力を貸してくださるようになりました。また一方で、地域の皆さんがいろいろなことに困っている現状も見えてくるようになりました。私たち行政職員にとっては簡単な思える役場での手続きでも、地域の方々にとってはどうしたらよいのかかわからず、とまどっておられることもよくあります。行政職員として、私がやらないといけないこと、それは地域住民の皆さんが何を求めておられるのかをきちんと把握し、住民のためになる仕事をしていくことだと思っています。今年からは教育委員会の所属となりました。子どもたちはもちろん、家庭や地域の皆さんからも喜んでもらえるような、そんな仕事をしていきたいと思っています。



学生たちは今

人間生活環境教育講座 4年
茅原 万奈 (H29卒予定)



親元を離れた松江での生活にも慣れた今、ふと気づくと、卒業まで早くも残り半年となってしまいました。入学してから今までの3年半を振り返ると、たくさんの人との出会いや経験があり、その恵まれた環境にいて自分自身の成長を実感することができていることに感謝しています。その中でも、仲間の存在は、私の中でとても大きいです。勉強や教育実習では支え合い、調理実習や被服製作では和気藹々と楽しみ、また、勉強だけではなく美味しいものを食べたり旅行に行ったりと、笑顔が絶えない日々を過ごしています。学生の“時間”というのは貴重な財産だと思います。自分次第で良くも悪くも変えられます。だからこそ、残りの半年を大切に過ごすとともに、教員という夢に向かってさらに頑張ります。



同窓会支部は今

浜田支部 浜田市立原井小学校 校長
仙田 健治 (S55卒)

浜田支部では、平成25年に浜田支部と島大同窓会本部・事務局と合同企画による交流会を開催しました。約50名の参加がありました。現職だけでなく、退職された方も多く参加していただき、縦のつながりを深めることができました。近年浜田支部で行った一大イベントになりました。

浜田市の教員の約4分の1が島大卒業生です。今後、同窓生の横のつながりをどのようにつくっていくか、「同窓会費を納めると何かいいことがある」という状況をどのようにつくっていくか、これからの課題です。

今年度は、同窓生のちょっとした集まりに対して、補助を考えています。そして、「島大」という共通の経験を最大限に生かせるようにしたいと思います。



母校・教育学部は今

.....先生のための大学院(教職大学院)の開設!

島根大学は今年度、大学院教育学研究科の改組を行い「教育実践開発専攻(教職大学院)」と「臨床心理専攻」の2専攻を開設しました。

このうち教育実践開発専攻(教職大学院)(以下、教職大学院)は、山陰地域の学校教育現場が抱える様々な教育課題に対応することができる高い総合力を持った「学び続ける教師」「スクールリーダー」を養成することを教育目標としています。(右図)

「理論と実践の融合」をめざしたカリキュラムを編成し、教育現場で豊富なキャリアを持つ実務家教員と大学の研究者教員の協働による指導体制を基本に、多くの教員が参画した「複数・オムニバス」による授業形態を積極的に採用しています。

教職大学院は「先生のための大学院」として山陰地域の教育力向上に貢献していきます。

【教職大学院がめざす教師像】

学び続ける教師

子どもをよく理解できる教師
(子ども支援力)

組織の中で力を発揮する教師
(学校創造力)

優れた教科指導力を持つ教師
(授業デザイン力)

省察による教育観の深化

【教職大学院が育成する力】

【教職大学院の授業風景】



来春、島根大学に新しい学部「人間科学部」が誕生します!

島根大学では文部科学省に新学部の設置計画が承認され、平成29年4月から本学6番目の学部「人間科学部」が誕生します。この学部は「心理学コース」「福祉社会コース」「身体活動・健康科学コース」の3コースからなる、「こころを知る、からだを知る、人をささえる」学部です。人とともに、地域とともに歩む島根大学に期待したいものです。

(教職大学院 長 和博 特任教授)

附属学校園は今

..... 11年間をつなぐ一貫教育

附属学校園は、平成20年度から幼稚園・小学校・中学校の11年間をつなぐ一貫教育を行っています。

幼稚園では、本物体験を通して豊かな感性を育てる体験を大切にしています。近年は、木育空間(樹木、木の遊具、広場、部屋等)での遊びの中から、創造性、コミュニケーション力、問題解決力等の基礎づくりを目的とした教育活動に取り組んでいます。

小学校では、日々の授業での振り返りとめあてを大切にしながら授業に取り組み、主体的、協働的に学ぶ子どもの育成を目指しています。また、外国語活動の教科化に向けて、実践的な教育プログラムの開発や研究成果の情報発信を行っています。

中学校では、教科で学んだことを活かし、総合的な学習の時間で島根県(松江市)の現状や課題を踏まえ、地方創生の視点からの課題解決型の学習に取り組んで、地域イノベーションの一翼を担います。

学習生活支援研究センターは、全国に先駆け平成27年4月、附属学校園内に設置しました。これまでの学習支援、生活支援、教育相談等の実践研究の成果を踏まえ、地域の教育課題である「通常学級における特別支援教育」について、授業や保育、個別支援の実践研究に取り組むと共に、特別支援教育を推進する拠点施設として先駆的な実践研究を行っています。

(教育学部附属学校園 齋藤 英明 校長)



「同窓会」に大いなる関心を!!

「教育学部同窓会」って、 — どんな活動している? — 会費は何に使われている?

このような質問をよく受けます。本部・事務局では、心して、「同窓会誌」「Leaf@同窓会」「ホームページ」などにより、ご報告・ご説明しているつもりです。改めて、これらでもご確認ください。

客員、会員、準会員からいただいた会費は、

- ・「同窓会誌」や「Leaf@同窓会」などの発行
- ・支部活動や同窓会促進のための助成
- ・学部学生の生活や就活の支援、学部支援
- ・大学、学部との連携や共催による活動（ホームカミングデーなど）

に使われます。

本年は「同窓会名簿」を発行しますが、この編集、注文者への助成も行っています。

どうぞ、不明な点はお尋ねください。

「同窓会」を開きましょう。 —「お祝い金」が支給されます。

毎年、同期生、研究室、部・クラブ、支部などの同窓会が、あちこちで多数開催されています。これらをお祝いし、支援するために参加者数に応じて、お祝い金をお届けしています。

- ・10人以下 5,000円
- ・11～25人 7,000円
- ・26～40人 10,000円
- ・41人以上 20,000円

詳しいこと、手続きについては、事務局へお問い合わせください。開催された場合は、「同窓会誌」上に、簡単な報告を掲載させていただきます。「同窓会」がどんどん多数開催されることを願っています。

「ホームカミングデー」にぜひ参加を

年に一度は母校に帰ってみませんか?

「ホームカミングデー」が企画されて、今年で10年となります。全学の共通企画と、学部別の企画があります。学部企画は、学部と同窓会、松江支部の共催で開催されます。(詳細は別紙にてご案内しています)

日時・場所 10月9日(日) 島根大学 松江キャンパス
・全学企画 13:00～15:00 ・学部企画 15:30～18:00

15:30 報告1 町川大弥 氏 (教育学部健康・スポーツ教育専攻 4年)
「地域とつながる活動を通して」(仮題)

16:10 報告2 藤原香奈海・原田佳緒里 氏 (教育学部音楽教育専攻 4年)
「『音のたまたま箱』の舞台裏」(仮題)

16:30 報告3 岩田幸子 氏 (安来市広瀬地域教育支援活動運営委員会 コーディネーター)
「地域教育活動の現場」(仮題)

16:50 コメント1 大畑伸幸 氏 (益田市教育委員会 社会教育課 課長)

17:00 コメント2 宮本美香 氏 (サクソ奏者)

※宮本氏は全学ホームカミングデーで演奏予定

17:10 全体意見交換

17:25 茶話会 (報告者・コメンテーターを囲んで) ～18:00 閉会



懇親交流会もおすすめてです。

学部教員、学生、同窓会員(どなたでも)が、一緒に交流します。

●18:30から、「炉端かば 松江学園通り店」(学園2-25-28、050-5786-6310)

●会費 学生1,500円 一般2,500円(同窓会からの補助による) 申し込み、問い合わせ 事務局まで。